



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月14日

上場会社名 株式会社エス・サイエンス
 コード番号 5721 URL <http://www.s-science.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 品田 守敏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 甲佐 邦彦

TEL 03-3573-3721

四半期報告書提出予定日 2020年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	228		75		61		63	
2020年3月期第1四半期								

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 63百万円 (%) 2020年3月期第1四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	0.63	
2020年3月期第1四半期		

(注) 2021年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年3月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	2,216	2,001	90.3
2020年3月期			

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 2,001百万円 2020年3月期 百万円

(注) 2021年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年3月期第1四半期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	500		130		120		125		1.24
通期	1,200		230		230		220		2.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 1. 2021年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前年増減率は記載しておりません。

2. 当予想は、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大の程度や収束の時期などにより、大きく変動する可能性があります。開示すべき重要な事項が発生した場合には、すみやかに業績への影響をお知らせいたします。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 株式会社 なごみ設計 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	100,593,749 株	2020年3月期	100,593,749 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	1,495 株	2020年3月期	1,495 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	100,592,254 株	2020年3月期1Q	100,592,666 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 P.2「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(企業結合等関係)	7
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大による政府の緊急事態宣言発令により、不要不急の外出自粛等で経済活動が制限され、食品・衛生用品等の生活必需品以外で消費に急ブレーキがかかりました。緊急事態宣言解除後も依然として感染拡大が続いており収束時期や経済に与える影響の大きさは先行きの見通せない状況が続いております。

このような状況の下、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績につきましては、売上高2億28百万円、営業損失75百万円となり、有価証券評価益11百万円を営業外収益に計上しましたが、経常損失61百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失63百万円となりました。

なお、当社グループは当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前年同四半期との比較分析は行なっておりません。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(ニッケル事業)

前年同期に比べ販売数量が減少したことにより、売上高は1億19百万円(前年同四半期1億47百万円 19.1%減)となりました。

(不動産事業)

賃貸収入のみとなったことにより、売上高は4百万円(前年同四半期6百万円 28.2%減)となりました。

(教育事業)

新型コロナウイルスの影響もあり、売上高は1百万円(前年同四半期4百万円 59.4%減)となりました。

(リフォーム関連事業)

新型コロナウイルスの影響がありましたが、前期工事受注の繰越があったことにより、売上高は1億2百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産は20億8百万円となり、主な内訳は現金及び預金8億6百万円、商品及び製品8億74百万円であります。

固定資産は2億7百万円となり、主な内訳は営業権(のれん)95百万円であります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債は1億35百万円となり、主な内訳は支払手形及び買掛金73百万円であります。

固定負債は79百万円であります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産につきましては、20億1百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の第2四半期累計期間の連結業績予想及び通期の連結業績予想につきまして、2020年5月14日公表の2020年3月期決算短信において未定としておりましたが、現時点での入手可能な情報に基づいて予想値の算出が可能となったため算定いたしました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	806,843
受取手形及び売掛金	171,880
有価証券	128,685
商品及び製品	874,780
仕掛品	13,537
その他	14,171
貸倒引当金	△1,460
流動資産合計	2,008,437
固定資産	
有形固定資産	6,942
無形固定資産	
のれん	95,491
無形固定資産合計	95,491
投資その他の資産	
その他	155,920
貸倒引当金	△50,563
投資その他の資産合計	105,356
固定資産合計	207,790
資産合計	2,216,227
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	73,593
短期借入金	3,000
未払法人税等	17,202
賞与引当金	3,514
工事損失引当金	1,106
その他	36,935
流動負債合計	135,351
固定負債	
役員退職慰労引当金	61,670
退職給付に係る負債	14,177
資産除去債務	1,622
その他	1,833
固定負債合計	79,303
負債合計	214,655

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間
(2020年6月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	1,500,000
資本剰余金	821,313
利益剰余金	△319,696
自己株式	△85
株主資本合計	2,001,531
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	40
その他の包括利益累計額合計	40
純資産合計	2,001,572
負債純資産合計	2,216,227

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	228,685
売上原価	188,508
売上総利益	40,177
販売費及び一般管理費	115,423
営業損失(△)	△75,246
営業外収益	
受取配当金	298
貸倒引当金戻入額	240
有価証券評価益	11,792
受取賃貸料	1,518
その他	335
営業外収益合計	14,186
営業外費用	
その他	602
営業外費用合計	602
経常損失(△)	△61,662
税金等調整前四半期純損失(△)	△61,662
法人税、住民税及び事業税	1,467
法人税等合計	1,467
四半期純損失(△)	△63,130
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△63,130

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△63,130
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	39
その他の包括利益合計	39
四半期包括利益	△63,091
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△63,091
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間において、株式会社なごみ設計の株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(企業結合等関係)

株式取得による子会社化

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称：株式会社なごみ設計

事業の内容：建設工事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は、ニッケル事業、不動産事業、教育事業を展開しております。

当社が、製品として購入しておりますニッケルは、ロンドン金属取引所(LME)の相場によって決定される国際市況商品であり、その時点で市場価格を反映させているため、仕入金額及び売上高は大きく変動することがありますので、安定した収益体制を確保し、企業価値の向上を図り、当社の重要な事業の一環として、新たな事業の展開が必要となります。

そこで、売上高の拡大と収益向上並びに財務体質の強化を経営目標として、当社の不動産事業にも関連ある建設工事業、内装工事業等数多くの建設業関係の許可を持つ、株式会社なごみ設計を完全子会社化し、当社の不動産関連事業と連携を深めながら、幅広い営業活動を展開して、安定した事業基盤の強化を図るためであります。

(3) 企業結合日

2020年4月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

株式取得直前に所有していた議決権比率 100%

企業結合日に取得した議決権比率 100%

取得後の議決権比率 100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価として株式を取得したことにより当社が同社の議決権の100%を取得するためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年4月1日から2020年6月30日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	123,633千円
取得原価		123,633千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

株式価値算定費用 1,000千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

97,939千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される、超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は前期2020年3月期に投資有価証券の売却により、最終当期純利益を確保したものの、営業損失やマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しました。2021年3月期においては、2020年4月1日に「株式会社なごみ設計」を子会社化し、売上増や営業利益の黒字化を目指して取り組んでおりましたが、コロナウイルスショックの影響が長引き、想定以上にニッケル事業をはじめとする売上の落ち込みが続いており、2021年3月期第1四半期においては、当社グループとして営業損失、四半期純損失を計上しております。

このため「継続的な営業損失又は営業キャッシュ・フローのマイナス」が見込まれ、2021年3月期第1四半期においては、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。当社グループはこの状況を一刻も早く解消するために、銀行等をはじめとする新たな資金調達も念頭に置きながら、新規事業の実現化に向けて日々邁進しております。

また、子会社化した株式会社なごみ設計におきましても、戦略的な事業拡大を推進しております。

なお資金計画においては、重要な不確実性は認められないため、継続企業の前提に関する注記の必要はないものと判断しております。